

低温期のクロアゲハ／ナガサキアゲハの飼育例

唐土 洋一

1. クロアゲハ

1) 10月に入り自宅庭のフユザンショウにクロアゲハの若齢幼虫(2頭)がついていた。11月になって、経過をみるべく確認したところ、葉は食べつくされ幼虫の姿は見当たらなかった。まだ、蛹にまで至っていないはずだと思い直し、周囲の食樹となり得る木々の葉を探して見たところ120cmほど離れたところに置いていたプランターに植えているキハダの葉上より2頭の終齢幼虫が見つかった。このうちの幼虫1頭を取り込み、キハダの葉を与え飼育(玄関先にて)した。

'97年11月23日 蛹化場所を求めてはい回っていたので、鉢植えのアワブキにつける。

11月24日 蛹化場所を決めたのか下向きにじっとしていた(6時30分頃確認)。

11月25日 前蛹姿勢に入る(6時30分頃確認)。

11月27日 前蛹のまま。

11月28日 既に蛹化していた(6時30分頃確認)。

2) 相生市壺根にて温州ミカンよりクロアゲハの終齢幼虫を採集した。ミカン類は年中緑葉をつけているので低温期に入ってもほそぼそと生き続けることが出来るものと思われる。

自宅に持ち帰り、温州ミカンの葉を与え飼育(玄関先にて)した。

'97年11月30日 採集(持ち帰り)。

12月9日 蛹化場所を求めてはい回っていたので、鉢植えのアワブキにつける。

12月12日 蛹化位置を決定(6時30分頃確認)。

下向きになっている。

12月14日 上向きになったり、下向きになったりしている。

12月15日 前蛹姿勢に入る。

12月21日 前蛹のまま。

12月22日 蛹化(2時30分から6時までの間

に蛹化したものと思われる)。

2. ナガサキアゲハ

10月3日、赤穂市高雄の千種川畔でナツアカネ等の写真撮影をしていたところ、ナガサキアゲハの雌が飛来してきた。足元に置いていたネットを取り、追いかけて捕まえた。自宅に持ち帰り、スダチに袋掛けして採卵したところ10月5日に13卵産みつけたので母チョウは野外に放した。産みつけられた卵はそのまま屋外に放置しておいたところ黒く色づくも孵化にまで至るものは少なく、やっとのことで2頭が孵化していたので幼虫はタッパに取り込み、温州ミカンとスダチの葉を与えて飼育した(1齢から5齢までは玄関先に、5齢から蛹までは室内において飼育した)。

'97年10月22日 2頭孵化。

12月8日 1頭5齢に達す。残り1頭は休眠中。

12月9日 休眠中のもの1頭5齢に達するが、12月11日に死亡。

'98年1月16日 脱糞、前蛹に入る。

1月24日 前蛹のまま。

1月25日 蛹化(午前4時30分頃確認したところ、蛹化し終えたところであった)。

注) クロアゲハの飼育はタッパに取り込み、脱糞後の終令幼虫を鉢植えのアワブキに移動させ蛹化させた。ナガサキアゲハの飼育はタッパに取り込み、タッパ内で蛹化させた。観察経過の時間等の詳細は不明(日にちのみ抑えた)。

<参考資料>

- 1) 広畑政巳(1982) 沖縄県産ナガサキアゲハ若齢幼虫の耐寒性について ひろおび(6)30.
- 2) 広畑政巳(1984) ナガサキアゲハ雌の黒化型 ひろおび(7)15.